平成２１年度

第4回「SYDボランティア奨励賞」受賞者名簿

SYD SINCE 1906 財団法人 修養団

後　援:文　部　科　学　省
社団法人中央青少年団体連絡協議会
財団法人日本レクリエーション協会
社団法人日本キャンプ協会

受 賞 者 一 覧

（敬称略･順不同）

文部科学大臣賞

- 豊田市立崇化館（そうかかん）中学校　麦の会　（愛知県）

優秀賞

【小学生の部】 日吉子どもサミット　（滋賀県）

【中学生の部】 名古屋市立はとり中学校　（愛知県）

【高校生の部】 中央学院高等学校　生物部　（千葉県）

【一 般 の 部】 該当なし

特別賞

- SYD北海道クラブ　（北海道）
- 横浜市立岡村中学校　（神奈川県）
- 長野県飯田風越（ふうえつ）高等学校　国際教養科3年　（長野県）
- みんなでつくる学校　とれぶりんか　（大阪府）
- 広島文化学園短期大学　食物栄養学科（広島県）

SYDは、文部科学省所管の社会教育団体です。青少年の健全育成を中心とした様々な活動を行っており、1906年、東京府師範学校(現在の東京学芸大学)に学ぶ蓮沼門三を中心とする青年たちによって創立されました。“愛と汗の実践”を理念として「心の教育」一筋に歩み続けて 104 年、今、みんなの幸せを願う「幸せの種まき運動」を全国的に展開しています。

文部科学大臣賞

豊田市立崇化館（そうかかん）中学校　麦の会　（愛知県）

地域貢献ボランティア

昭和51年、校内で問題行動が発生し、有志を募って善行活動を行うことによって立て直そうという動きが出た。そこで「米の陰に隠れ、目立たなくてもたくましく育つ麦のように」という願いをこめて「麦の会」と名付けられ発足。以来33年という長期間にわたって、地域に貢献するボランティア活動を続け、地域の方々にも信頼されている。とくに2001年度からは部活動となり、「福祉活動」「地域活動」「奉仕活動」の3本柱で幅広く活躍、常時活動できる「正会員」、普段は運動部など他の部活動に所属しているが都合のつくときに参加できる「準会員」の2種類の会員を設定し、活動している。

「福祉活動」では様々な施設を毎月訪問し、交流を行っている。養護老人ホーム若草苑（9年目）ではゲーム等を行い交流、障がい者福祉会館（7年目）では、リハビリの手伝い等を、子育て総合支援センター（7年目）では、未就学児の遊び相手として活動している。

「地域活動」は市のイベント「夏休みこども博覧会」や「全国一斉遊びの日ウォークラリー・ふれあいin豊田」等で、地域団体・メンバーと連携し、スタッフとして参加している。また「崇化館交流館祭　夢フェスタ」は参加10年目となり、毎年40名程の生徒が参加し、販売等の手伝いを行っている。

「奉仕活動」では、会員が毎週2回、「校区のゴミ拾い・あいさつ運動」を行っている。午前7時15分に学校をスタートし30分かけて校区の空き缶等のごみを分別しながら地域の人に挨拶をして回っている。

「麦の会」正会員は同学年の生徒とうまくかかわれない生徒が多い。また、運動部に挫折した生徒や、不登校から立ち直り始めた生徒、特別支援学級に在籍している生徒もいる。様々な問題を抱えた生徒たちが、ボランティア活動を通して①毎月の訪問を継続したことにより、人と人の繋がりができた喜び②自分の居場所ができ、自己有用感を持てるようになった喜び③頼られたり、期待されるようになり、自尊意識が生まれてきた喜び、という3つの喜びを感じるようになった。

地域社会からも「中学生がこんなことまでやってくれるんだ」「中学生のイメージが変わった」と多くの嬉しい声が届いている。また、卒業後も地域の公民館祭等にOBが手伝いに来て、地域の青少年育成に貢献しているとの声もあがっており、これも大きな成果である。

←＜養護老人ホーム「若草苑」交流＞
毎月１回、利用者の方とゲームを行い、交流する。交流を楽しみにしてくれている利用者の方も多い。

→＜交流館祭「夢フェスタ」で販売のお手伝い＞
約４０名の生徒でお手伝いをし、地域の方と協力して交流館祭を盛り上げることができた。

←＜夏休みこども博覧会段ボール迷路「ぼけちゃん広場」＞
ゴールした子どもにスタンプを押してあげたりする。

→＜校区のごみ拾い・あいさつ運動＞
たばこの吸殻など年々少なくなってきた。長年の活動の成果のように感じる。

優　秀　賞

【小学生の部】 日吉子どもサミット　（滋賀県）

地域におけるボランティア活動

日吉子どもサミットは、同地区の4小学校と2中学校の児童会・生徒会が独自に活動を行おうと「日吉はひとつ」を合言葉に、平成2年に発足、「皆一緒に出来ること」としてボランティア活動がスタートした。

主な活動は、①アルミ缶回収を行い、収益金をユニセフに寄付する活動、②各小学校区毎のボランティア活動、③子どもサミット会議の開催である。

アルミ缶回収は、アジア・アフリカの同年代の子どもが予防接種ができず亡くなっている実態を学び、「小さなことでもみんなで取り組めば大きな力になる」との意見から始まった。各校の児童生徒だけでなく、地域の人にも協力してもらいやすい環境を整え、今では「子どもサミット＝アルミ缶」と認知され定着してきている。

ボランティア活動は、各小学校区毎に「坂本ふるさと大掃除」「下坂本ｸﾘｰﾝ作戦」「雄琴ヨシ刈り」「日吉台花のまちづくり」と名づけた活動を行っている。この活動は、子ども達が立案企画し、大人がバックアップする事とし、今では其々の学区に根付き、恒例の地域行事となっている。

これらの活動は各校の代表児童・生徒達と地域の代表者に参加してもらうサミット会議で話し合われる。「会議→計画→実行→反省」の繰り返しの中で、児童生徒達は常に意欲的に活動している。

19年続いてきた日吉子どもサミットは、この日吉地域に無くてはならない活動になっており、地域がひとつになることの重要さを実感している。今後は、これまでの取り組みを継承発展させて、滋賀県の誇りとなる地域にしていきたいと考えている。

＜坂本ふるさと大掃除＞

＜雄琴ヨシ刈り＞

＜アルミ缶回収＞

＜日吉子どもサミット会議＞

【中学生の部】名古屋市立はとり中学校　（愛知県）

ボランタクロース

「よう来てくれたね。今年も待っとったよ。寒い中、わざわざありがとね」そのお年寄りは、そう言ってわざわざ玄関から家の外に出て、嬉しさをいっぱいにあふれさせた笑顔で生徒からプレゼントを受け取った。

本校では毎年11月の中頃に学区内の一人暮らしのお年寄り約500人のお宅に手作りのプレゼントとメッセージカードを届ける「ボランタクロース（ボランティアとサンタクロースを合わせた造語）」という活動を行っている。この活動の歴史は昭和61年にまでさかのぼる。「老人の笑顔ははとり（中学校）の生徒から」というスローガンのもと、年賀状や暑中見舞いを送ったり、プレゼントを届けたりする活動が生徒会を中心に始められた。その活動は全校生徒が参加する活動へと広がり、現在までの24年間、本校の伝統として受け継がれ、今日に至っている。

プレゼント製作や年賀状などの葉書代に必要な資金は、年6回、生徒と地域の方が持ち寄るアルミ缶回収の売却利益を充てている。アルミ缶回収は、ゴミ減量とリサイクル推進という環境問題を考えさせるという観点で大きな意味をもっている。

10月末に3年生がプレゼントを製作し、2年生は一緒に届けるメッセージカードを製作する。1年生は、11月末にお年寄り一人一人に宛てて年賀状を書く。学校全体で全生徒の力を終結して活動に取り組んでいる。

お年寄り宅への訪問活動は、参加を希望した生徒が行っていて、本年度も全校生徒の3分の1に該当する300名以上の生徒が有志として参加した。活動のねらいは「地域に住む一人暮らしのお年寄りに目を向けることで、人に対する思いやりや優しさを育てる」ということ。本校でも核家族化が進み、祖父母と同居している生徒は多くない。そのような生徒たちに、お年寄りとの接点をもたせることで、ねらいを達成できていると考える。

成果として「生徒のボランティア活動への参加意欲の向上」が挙げられる。参加した生徒からは来年も絶対に参加したい、という声が聞こえてくる。学年が上がるにつれて参加者数は増えている。生徒たちは「誰かに喜んでもらえることの嬉しさ」「誰かの役に立てたことへの達成感」という気持ちが強く刻まれた。この活動は伝統として継続していきたいと考えている。活動の準備等の負担は決して小さくはないが、「人間としての心の成長」が生徒たちにもたらされる。それがこの世の中を生きる生徒たちにとって、最も大切で必要なことだと確信している。

＜さあ、ボランタクロースに出発！＞

＜「よう来てくれたね。待っとったよ」＞

＜お年寄りと生徒が笑顔でつながる＞

＜回収したアルミ缶搬出作業＞

【高校生の部】 中央学院高等学校　生物部 （千葉県）

使用済みポリポットから生まれた教育支援活動

当生物部は創部以来33年間、ラン科植物の無菌培養実験を継続しており、そこで不要となった培養容器（ポリポット）のリサイクルを検討していた時、プランクトンの純粋培養に再利用出来ることが分かった。次にそのプランクトンの活用方法を検討し、我孫子市内の小中学校に利用してもらおうと連絡をしたところ、16の小中学校から依頼を受けた。そこで、「プランクトンだけでも多くの学校が必要としているなら、他の様々な生物教材を配布して小中学校の理科教育に役立ててほしい」と考え、17年前から本格的に配布会を実施してきた。

当初は、我孫子市内だけであったが、現在は千葉県北西部、茨城県南西部の小中学校に配布し、遠方からの依頼も可能な限り対応している。申込受付、配布容器の調達方法、配布方法等は、費用面も含め試行錯誤の繰り返しであった。また、配布会では毎回アンケートを実施し、教材の利用学年・人数、希望教材を翌年の配布会にできる限り反映させてきた。現在は、淡水産プランクトン、ツタンカーメンのエンドウ豆、カブトムシの幼虫、アホロートル等、栽培や飼育の方法も確立し、安定した配布が可能になった。

教材を配布する際、生物部員がそれぞれ担当して、配布する教材について、先生方に説明する為、十分な知識を持ち、質問にもしっかりと対応できなくてはならない。その為、今以上に生物教材の観察や勉強会を実施し、自信を持って配布会に臨みたいと考えている。

現在までに本校の配布教材を利用してくれた学校数は1,950校を越えている。多くの人々に役立っているこの活動が地域の学校に受け入れられ、理科教育の支援活動として、生物教材配布会の持つ意義を感じることができる。今後は本校以外にも、生物教材を配布していける学校を探し、教材の共有や情報交換を行い、配布会の会場を増やし、この活動を全国規模のネットワークに展開する事が目標である。また、一人でも多くの小中学生に私達が育てた生物教材を利用して、理科や生物に対する興味を抱いてほしいと思っている。

＜配布会受付＞

＜配布会の様子（ウーパールーパー）＞

＜生物教材だけでなく、さとうきび等の挿木からの栽培についても配布＞

＜配布会でのアンケート記入＞

特　別　賞

ＳＹＤ北海道クラブ（北海道）

本クラブは平成19年度に発足、メンバーは、小・中・高・専門学校生の15人である。活動としては、四季を通して全国から集まる小学生と中学生の自然体験キャンプ・リーダーとして協力したり、病院・老人施設への訪問、身体・知的障がいの子どもとの触れ合い等、幅広く様々なボランティアに取り組んでいる。

障がいを持った子どもたちとのふれあいでは、健常者と障がい者という壁を無くし、心が通じ合えたりする楽しさに気付き、共に楽しみ、子どもたちからパワーや元気をもらっている。昨年の2月、札幌雪祭りに障がい者10名とクラブのメンバー、総勢42名の雪まつり招待バスツアーを行った。以前から交流している障がい児の子どもたちにいつか雪祭りを見せてあげたいと考えていた。重度の障がい児の車椅子を雪上で押すことは、思っていた以上に大変なことであり、また障がい児が人ごみの中でパニックを起こすという苦労もあったが、初めての雪祭りを喜んでいる子どもたちの様子を見てやってよかったと思った。

また、昨年から「ホスピタルクラウン・ケアリングクラウン」として病院や老人施設を訪れ、メンバーがピエロに扮し、手品や歌などを披露するという交流を行っている。老人施設では、この訪問を機に施設の中で歌声が聞かれるようになり、お年寄りの生活に変化がでてきて、また来てほしいと依頼を受けるようになった。

これまでの活動で多くの人たちと触れ合う中、多くの事を学び、そして人間的にも大きく成長できたことに感謝している。この感謝の気持ちを大切にしながら、これからも一人でも多くの人たちのお役に立てるボランティア活動に取り組むこと、それが本クラブの夢である。

＜日鋼病院クラウン＞

＜いぶりたすけ愛クラウン＞

＜札幌雪まつり＞

横浜市立岡村中学校　（神奈川県）

横浜市磯子区に所在する本校は、全校生徒522名（17クラス）で、下町的雰囲気を持ち、昨年創立60周年を迎えた横浜でも伝統ある学校で、ボランティア活動の歴史も古く、20年前はJRCに全校生徒が加入（現在は希望者が加入）し活動していた。近年では地元地域を拠点とした活動を中心に地域の方々と共に作りあげている。活動の大きな目的は、生徒のボランティア精神や地域一員としての自覚の育成である。

活動内容は①独自に作り上げた地域施設連携型ボランティアの「岡ボラ」②有料の区社会福祉協会募集型ボランティアの「サマボラ」③地域夏祭り手伝い等の地域主導型ボランティア④その他として地域清掃、防災訓練、福祉運動会、福祉施設での演奏会、商店街イベント手伝い、地域運動会、校内緑化等のボランテ

ィアを行っている。特徴は、ボランティア活動が生徒会を中心に組織化されている点で、地域や関係施設からの要請は、生徒会が窓口となり、その都度昼の放送や掲示広報によって参加希望者を募り、役員が生徒会室にて受付するなど生徒の手によって運営されている。

地域夏祭りの手伝いでは、生徒は「大人の仲間入り」という立場で出店を任され、地域の方々に大変期待されている。駅周辺の清掃活動、全校生徒による各町内会の地域清掃等は地域連携に大きく貢献できた。また地元商店街の火災による復興イベントへの手伝いでは、心より感謝されたことがとても印象的だった。

岡村中ボランティアの凄さは、参加生徒が多いことで、毎年延べ400名を超える参加があり、ここ数年参加希望が多すぎて抽選になる事も珍しくない。何よりも生徒自らが進んで参加し楽しんでいることが大きな財産である。

長年、生徒指導面で多くの問題を抱え続けており、生徒と地域の交流を通して、少しでも多く学校への理解・協力を得ることが重要だったが、取り組みの積み重ねにより、生徒の力を認めてもらい、今では当たり前のように「頼りになる人材」として活躍させてもらっている。この歴史ある「幸せの種まき」は学校からも地域からも蒔かれるようになり、今では「ふれあいの種、思いやりの種、よろこびの種、そして信頼の種」が相互に花を咲かせて実を結ぼうとしている。

＜駅周辺清掃＞

＜地域夏祭りの手伝い＞

＜老人福祉施設訪問＞

長野県飯田風越高等学校　国際教養科３年（長野県）

本校は県南部の飯田市に位置する普通科7学級・国際教養科1学級の高校である。生徒会は奉仕活動も盛んで、同窓会と連携した「ラオス・スニーカー支援」は7年目となった。又、国際教養科は伝統的に国際支援活動に取り組み、3年生も「共生」をテーマの一つとして様々な活動を続けている。

3年生の活動の始まりは、入学式でのフィリピン出身留学生との出会いであった。また英語副読本の発展として、世界の幸せのために役立ちたいとの願いを込め、桜の苗木を植栽した。夏には、ペルー少年野球チーム支援、カンボジア寺子屋支援活動を行った。2年次には救援衣料支援回収活動、モンゴルのストリートチルドレン支援活動、男児の心臓移植手術支援活動、オーストラリアのビクトリア森林火災被害支援活動などに取り組んだ。

3年次、今年の5月にSYD青年部の「貧困と共に生きる子どもたち」の講話を伺い、桑山紀彦氏の活動の原点であり、最初に出会った留学生の母国であるフィリピンの子ども達の支援活動に協力したいと感じた。今年の文化祭の学級テーマは「青年ボランティア・アクション in フィリピン」支援となった。まず、本全校生徒、各生徒の出身中学校、加えて新聞紙上を通じて地域の方々に支援品の協力を願った。パネル展示により来場者の方々にも活動を理解して頂き、メッセージカードの記入等もお願いした。

これまでの支援活動では現地の人達と直接触れ合う事ができないでいたが、今回初めて2名の仲間を通じて現地の人々と繋がる事ができた。

ボランティア活動は多くの事を教えてくれた。自分達が学校で勉強できる幸せ、活動を支えて下さった方々

に対する感謝、地域との繋がり、支え合って生きていくことの喜び、一つ一つの出会いが新たな出逢いの種となる事。風越高校の「世界に愛をそして平和を～One For All, All For One～」の桜の木は、本校の伝統と共に幸せの花々を咲かせてくれると信じている。

＜支援品とメッセージ、たくさん集まりました＞

＜また来るよ！＞

＜支援品を現地の子どもたちに届けました＞

みんなでつくる学校　とれぶりんか（大阪府）

平成15年11月に元中学校教諭中川雄二とその教え子達が、不登校等の子や障がいを持つ子達と学校・家庭・地域・行政を横断的につなぐ必要性を感じ、彼らの居場所作りとしてフリースクール「とれぶりんか」を設立し、現在120名が活動している。作家で教育者のユダヤ系ポーランド人、ヤヌシュ・コルチャックが院長を務める孤児院の子どもたちとともにナチスに虐殺された「トレブリンカ強制収容所」から名付けた。

主に枚方・寝屋川を中心として関西各地で活動。内容は、国際交流部のカンボジア、タイ、ネパール、フィリピン等支援活動を中心とした海外に目を向けた学習。演劇部の「とれぶりんか劇団」「とれぶりんか子ども劇団」による公演で、障がい児も主体的に参加できるオリジナル演劇等を通してメッセージを発信するなど10の部会に分かれ活動をしている。

これらの活動のねらいは、①様々な状況下で苦しむ子ども達や若者の潜在的な力・可能性を引き出し、地域に主体的に働きかけてゆく存在として自信を持てるように育てていくこと。②行政に対し、批判するのではなく共に汗を流していける具体的な提案を行うこと。③世代・課題をつなぎ、現実に学ぶこと、としている。

それぞれの取組に小学生からシニア世代まで参加活動しているので、今後もマンネリにならないで清新な運営と飛躍を期することができるが、個人や団体の限界も痛感している。これから、明確な希望・誇り・仕事その筋道に光を当てる事ができる人・モノ・資金等の公的支援をどう実現するかが課題であると感じている。

＜子ども劇団＞
命の尊さ、平和等をテーマに演劇を通してメッセージを送り、演じる事で学んでいる

＜チェレンジショップ＞
障がいのある子や引きこもりがちだった子らのアルバイトを兼ねた居場所作り

＜バリアフリーコンサート＞
障がいのある人もない人も遠慮せずに来てもらえるコンサート

広島文化学園短期大学　食物栄養学科（広島県）

栄養士養成施設と地域連携からなる実践教育活動

本学科では、地域貢献のためのボランティア事業として、ひとり暮らし高齢者への配食サービスとクリスマス会を毎年実施している。これらは、本学科が栄養士養成施設であり、将来、栄養士となる学生が豊かな心を持ち、高齢者の食生活の支援のあり方を学び体験する活動として、また地域のひとり暮らしの高齢者の方の食生活面で何かお役に立てないかと、配食サービスは平成9年、クリスマス会は平成10年に始めた。

配食サービスは、本学周辺のひとり暮らしの高齢者約120名の方から毎回希望者を募り、約50名の方が毎年10月から2月にわたり5回実施している。学生達はお弁当に手作りのメッセージカードを添え、自宅まで出向き手渡ししている。さらに、献立の嗜好調査アンケートを行い、次回の配食等に役立てている。又、この活動に合わせ平成11年度から高校生にも、高齢者向けお弁当献立を通して、豊かな心が育つことを願い、「お弁当献立コンテスト」を実施し、今年度は350名の参加があった。

クリスマス会は、フルコースメニューを中心にクリスマスの雰囲気を出す創意工夫をし、目で見て楽しめ、味も高齢者の嗜好を考えて決めている。又、食後の余興として、音楽の演奏やゲームなどの演出も行っている。この会も参加者との交流を楽しみ、企画運営を工夫した成果が発揮できる良い機会となっている。

二つの活動は、10年以上にわたり地域のひとり暮らしの高齢者に喜ばれており、社会福祉協議会との連携も充実し、協力体制も整っている。この活動で高齢者の方と直接交流のできることが学生達にとっても大きな励みになっている。今後も、学生達や高校生に豊かな心が育ち、地域社会に貢献して行く姿勢を学ぶ機会として、継続したいと考えている。

＜クリスマス会会場＞

＜コース仕立てのメニュー＞

＜メッセージカードも添えて＞

＜笑顔を添えて配食サービス＞

SYDボランティア奨励賞 実施要項

財団法人修養団では、昭和57年より平成13年まで「蓮沼門三社会教育奨励賞」により多くの優れた社会教育活動を実践した個人、グループ・団体を顕彰して参りました。この実績を踏まえ、創立100 周年を記念し、新たに「愛と汗の精神」を信条とする《幸せの種まき運動》の実践者を顕彰する「SYDボランティア奨励賞」を設置しました。

主 催：SYD（財団法人修養団）
後 援：文部科学省、社団法人中央青少年団体連絡協議会、財団法人日本レクリエーション協会、社団法人日本キャンプ協会

1. 趣　旨

今日、次代を担う青少年の健全育成はますます重要な課題となっている。そこで、ボランティア活動の分野で著しい活動を実践し、優れた業績をあげたグループや個人を顕彰することにより、青少年のボランティア活動を促進するとともに、活動の習慣化を図り、生きる力や豊かな心を育むなど青少年の健全育成に寄与する。

2. 対　象

原則として、ボランティア活動を実践している学校（生徒会、クラス、クラブ等）やPTA、子ども会等のグループ及び個人

3. 選考基準

次の項目に該当し、高い評価を得られたもの

(1) ボランティア活動の分野で著しい活動を実践し、優れた業績をあげ、今後の活動に期待のできるもの
(2) ボランティア活動に創意工夫や新しい方策を取り入れ、新機軸を拓き、今後の活動に期待のできるもの
(3) ボランティア活動を受け入れ、施設の利用、改善、充実に努め、活動の活性化に寄与している施設またはそれを推進する活動
(4) 青少年の健全育成を目的としたボランティア活動を実践し、将来が期待されるグループ及び個人

4. 選考方法

学識経験者等9名に選考委員を委嘱し、選考委員会にて決定する。

5. 表　彰

文部科学大臣賞　1点

クリスタルトロフィー（表彰状）、副賞（活動奨励金20万円またはSYD「青年ボランティア･アクション in フィリピン」へ2名招待）

優秀賞　4点（小学生、中学生、高校生、大学生･一般の部）

クリスタルトロフィー（表彰状）、副賞（活動奨励金10万円）

特別賞　数点（小学生、中学生、高校生、大学生･一般の部）

クリスタルトロフィー（表彰状）、記念品

6. 贈 呈 式

期日：平成22年2月7日（平成21年度）

会場：SYDホール

7. 募集方法

都道府県教育委員会、社会教育団体、青少年団体、学識経験者およびSYD組織、関係者に推薦を依頼するとともに、新聞、雑誌等のマスコミに広報を依頼する。

8. 応募方法

所定の様式に必要事項を記入し、活動報告書の上に添付して下記まで送付する。

9. 締め切り

平成21年12月1日（平成21年度）

10. 申込み･問合せ先

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ケ谷 4-25-2　SYDボランティア奨励賞 係

TEL：03-3405-5441 FAX：03-3405-5424　E-mail：info@syd.or.jp http://www.syd.or.jp/

選 考 委 員	
青柳　修治（全日本中学校長会事務局長）	**明石　要一**（千葉大学教授）
大野　　曜（[財]日本女性学習財団理事長）	**仲野　好重**（大手前大学教授）
長沼　　豊（学習院大学教授）	**山田　一功**（日本PTA協議会相談役）
國分　正明（[財]修養団理事長）	**山﨑　一紀**（[財]修養団専務理事）
青木　富造（[財]修養団青年部長）	

過 去 受 賞 者 一 覧

（敬称略・順不同）

第1回（平成18年度）

文部科学大臣賞

- 京都市立京都御池中学校（京都府）

優秀賞　＊【高校生の部】該当なし

【小学生の部】 鏡石町立第一小学校（福島県）
【中学生の部】 庄原市立東城中学校（広島県）
【 一般の部 】 合同ボランティアネットワーク（神奈川県）

特別賞

- 国崎翠・吉居夏奈（北海道）
- 美幌町青少年育成協議会（北海道）
- 喜多方市立山都第一小学校（福島県）
- 熱海市立小嵐中学校（静岡県）
- 加藤ひとみ（岐阜県）
- 伊江村立伊江中学校（沖縄県）

第2回（平成19年度）

文部科学大臣賞

- 香川県立多度津水産高等学校（香川県）

優秀賞　＊【小学生の部】【 一般の部 】該当なし

【中学生の部】 木更津市立鎌足中学校（千葉県）
【高校生の部】 学校法人高倉学園豊橋中央高等学校（愛知県）

特別賞

- 天草市立城河原小学校（熊本県）
- 志布志市立通山小学校（鹿児島県）
- 東横学園中学・高等学校　中学2年（東京都）
- 多治見市立多治見中学校（岐阜県）
- 神奈川県立相原高等学校「相こっこプロジェクト」（神奈川県）
- 熊本県立盲学校（熊本県）
- 立命館大学国際部国際協力学生実行委員会（京都府）
- ブラジルを美しくする会（ブラジル）

第3回（平成20年度）

文部科学大臣賞

- 学校法人篠ノ井学園　長野俊英高等学校　郷土研究班（長野県）

優秀賞　＊【小学生の部】該当なし

【中学生の部】 新宮町立新宮中学校相島分校　相島少年消防クラブ（福岡県）
2008 年度屋久島町立小瀬田中学校2年生「笑顔」プロジェクト〈鹿児島県〉
【高校生の部】 更級農業高等学校　農業クラブ　農業応援団「ねこの手隊」〈長野県〉
【 一般の部 】 八雲ジュニアサポーターズクラブ（島根県）

特別賞

- 尾道市立三幸小学校（島根県）
- 鳴門市第一中学校　ボランティア部（徳島県）
- 富山県立小杉高等学校　生徒会（富山県）
- 富貴中おやじの会（愛知県）
- 高知市朝倉里山を造る会（高知県）

SYD『幸せの種まき運動』とは

－みんなでまこう！幸せの種－をスローガンとして、まわりの人々に、社会に、一粒でも多くの‘幸せの種’をまいていこうという運動です。さりげなく、よろこんで、出来るだけ‘幸せの種’をまいていきましょう。種をまくときは、あなたの"笑顔"という栄養分を添えて！

《三つの‘幸せの種’》

☆こんにちは！という‘ふれあいの種’
☆どうぞ！という‘思いやりの種’
☆ありがとう！という‘よろこびの種’